



School Management Review

学校と企業は違うんです？！

私立学校には当然「生え抜き」の教職員さんもいらっしゃるが、「移籍組」の方もいらっしゃるでしょう。移籍といっても、どこから移って来られたかは人それぞれ。公立校から、公務員から、そして一般企業から…そして、どこから移って来られても、移籍組の皆さんは各私学の「風土」になかなかなじめない、あるいは反発を感じられる方も多いように思います。

さて学校で話をお聞きしていると、「企業アレルギー」とも言うべき体質があることを感じます。企業ではこういうことが始まっている、とか、企業では以前からこういうことをやっていて、というような発言に対して、入口でシャットダウンしてしまってその内容については聞く耳すら持たない、という教職員さんは確かに多くいらっしゃいます。一方で、企業ではこれは当たり前だから、という調子で学校にも同じことを求める方もいらっしゃいます。学校も企業と同じ事業体であり、組織なのだから、企業のようにスピーディーに物事を決め、実行に移すべきだ、といった考え方が。

私は両者の言い分にそれぞれ共感もし、同時に違和感も持っています。学校の特殊性は確かにあります。それは「学び」という、一生終わることのない活動の場を提供する事業体として、短期的には結論を出しにくい、あるいは結論を出してはならないことは確かでしょう。そして、その性質上、物事の決め方や進め方がトップダウンではなされないことにもまた、一定程度必要性があると感じます。

(弊社ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」2016年9月7日付記事を改編し掲載しています)

ですから、仮にPDCAサイクルを回すと言っても、全ての目標を定量的に数値化し、その数値の達成度で当該年度の施策の進捗度を測ることは適切ではないでしょう。企業経営を経験してこられた方にとっては歯がゆく思うこともあるかもしれませんが、人の育ちは物差しで測れるほど単純ではありません。

ただ、企業経営から学ぶところがないかと言えば、そうは言えません。その手法や考え方には優れたものが数多くありますから、むしろどんどん学ぶべきです。例えば数値目標についても、仮にそれができないのであれば、他の方法で何とかできないか、という工夫があつていいと思います。最近問題になっている労務管理、残業抑止なども、民間企業での取組はおそらく大きなヒントをもたらしてくれるでしょう。

そう考えると、学校だから、企業だから、と声高に主張することにそれほど大きな意味はない気がします。子どもたちのより良い未来のために、という「目的」にこだわり、「手段」「方法」へのこだわりを捨てることこそ、教職員に求められる感覚なのではないでしょうか。学校は経験としてやってこなかったことをやろうとしたときの拒否反応が大きいように感じますが、それは子どもたちを育てる場としては決して望ましいことではありません。何事もチャレンジしてみるという気持ちを、学校の新たな風土にしていきたいと願っています。

1 School Management Review

学校と企業は違うんです？！

2-3 <連載>事業計画を作ろう！

第7回 課題を抽出する～目標と現状のギャップ～

3 学校経営トピックス

4 会議のコツをひとつまみ

机といすの配置を変えてみよう

神無月

October

10

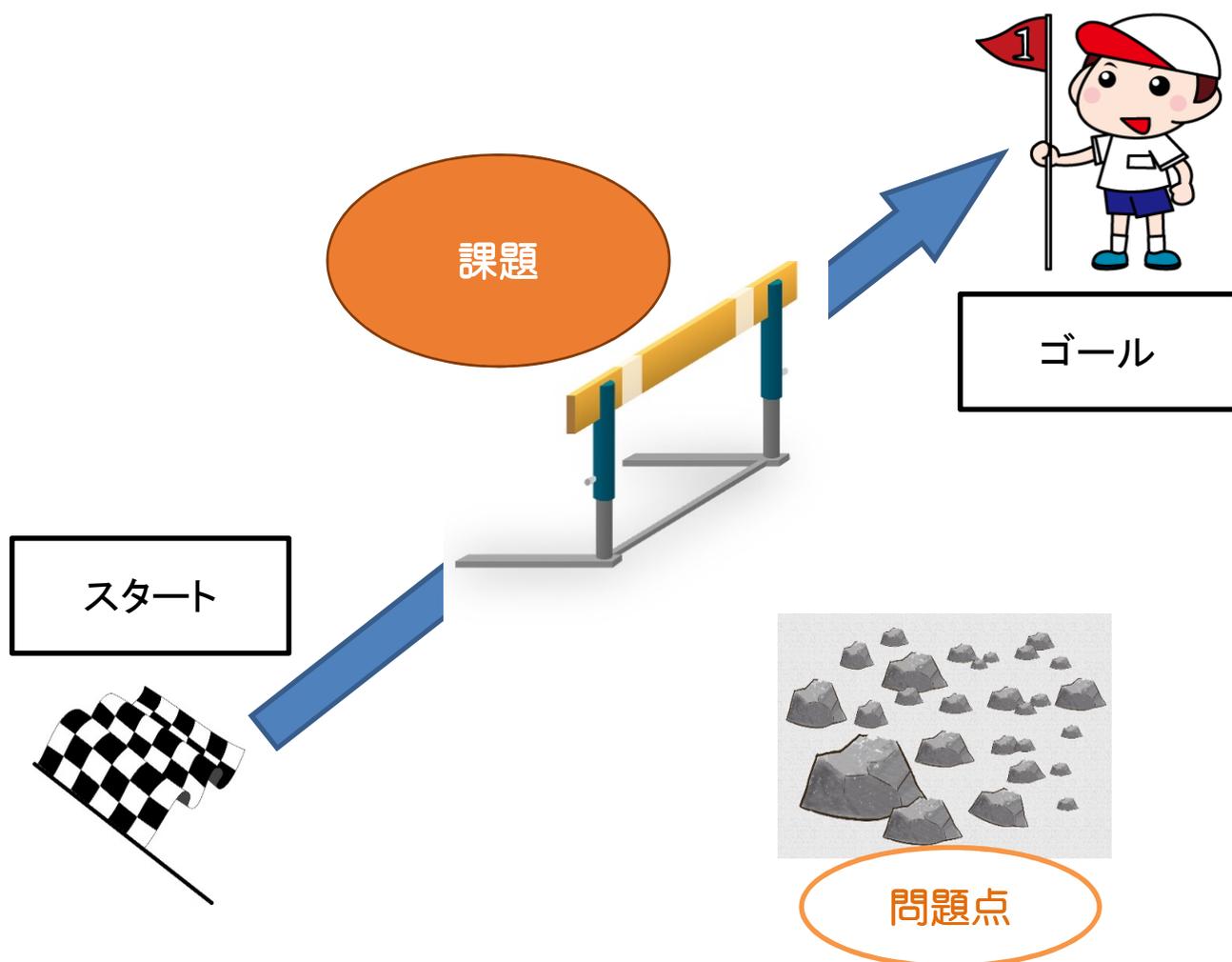
2016

第7回 課題を抽出する～目標と現状のギャップ～

「課題」と「問題点」。よく似た言葉ですが、その違いを意識されたことはあるでしょうか。私は両者には明確な違いがある、と考えています。

例えば「人件費率が平均に比べて高い」という事象があるとします。このことは「問題点」として指摘されることの多い事象ですが、確かに人件費率が高いことは、経営上何らかの「問題」であることは確かでしょう。

一方で、この学校が「他校にはない独自性を発揮するために、教職員の存在価値を高め、教材等も自主開発するなどして教材やインフラの費用を人件費に回そう」という方向性を打ち出していたとしたらどうでしょうか。人件費率が高いという事実は変わりませんが、それはむしろ意図的に高くしているのであり、経営上対処すべきことがらではない、とも言えそうです。このような場合、私は当該事象を「課題」とは認識しません。



つまり、「問題点」は目の前に存在するあらゆる事象が該当するのに対し、「課題」は目標に向かう際に出現する障害を指す、と定義できます。人件費率が高くても、それが学校の理想や目標に向かう際に障害になるものでなければ、それは経営課題ではないのです。

学校経営においては、日常的に様々なトラブルが起こります。それは子供たち自身が引き起こすこともあれば、保護者が関係することもあるでしょう。場合によっては自らの教職員が要因を作ってしまうこともないわけではありません。学校はサービス業の中でも特に「ひと」に関する要素が強い業界ですから、その分だけ突発事象が多く発生するとも言えるでしょう。そしてそれらのトラブルの中でも安全性に関することがらについては、学校がどこに向かうかによって対処方法が大きく変化することは少なく、まずは安全確保に向けての応急処置がなされることとなります。要するに、学校において問題が発生するということは日常的なことであり、何ら特別なことではないのです。

その一方で、緊急性は高くなくても、中長期を見据えると対処すべきと思われる事象も数多く存在します。カリキュラムのこと、部活動のこと、教職員の労働環境、処遇、組織づくり、財政や収支のこと…まさに枚挙に暇がありません。

要するに、学校では問題点は数限りなく存在しているのです。そしてそれらのひとつひとつに対処法を設定し、それを行動に移すことを繰り返しても、おそらくすべての問題点をつぶしきことは不可能でしょう。だからこそ、対処すべき問題点を絞ることが重要なのです。課題抽出はこのように、優先的に対処すべき問題点のみを絞り込むための、学校経営上必須の行為と考えていただきたいのです。

ここまでお読みいただいた皆様には、課題抽出において留意すべきことが何であるか、すでにご理解いただけたことと思います。繰り返しになりますが、課題抽出のために必須の要素としてはまず1つめに「目的地」を意識することが挙げられます。どこに行きたいのかが明確であってはじめて、そこに向かう途上にある障害が分かるのです。そして2つめは正確な「現在地」を把握することです。今どこにいるのか、という認識が誤っていると、目的地への経路も誤ったものになってしまいますから、現状がどうであるかということは正確につかんでおく必要があります。これら2点を踏まえて、両者のギャップを抽出することこそが課題抽出、ということになります。

本連載では第4回と第5回で「たどり着きたい理想像」について考えました。そして前回、「現在地」を把握する手法を学びました。そして今回、理想像と現在地の途中にある課題を抽出するという段階に歩みを進めました。経営を考える、あるいは事業計画を策定する際の順序をこのように整えていただければ、適切な課題抽出がなされるものと思います。ぜひ実践してみてくださいね。

学校経営トピックス ～8月掲載ブログより～

- 2016. 8. 30 こころのABC活動
- 2016. 8. 25 男子陸上400メートルリレーで感じたこと
- 2016. 8. 19 恐ろしい病気の話
- 2016. 8. 18 関西教育ICT展に参加して
- 2016. 8. 9 塾のない村の子ども達の高学力の秘訣

学校経営ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」 <http://ysconsult.hatenablog.com/>

会議のコツをひとつつまみ



理事会、評議員会、各種の委員会、部会、そして職員会議…

ミーティングや打ち合わせなども含めると、人が集って話し合うことは日常茶飯事です。

そんな会議にちょこっと工夫を加えてみませんか。ほんの少しの隠し味が、生まれる成果を豊かにしてくれますよ。

机といすの配置を変えてみよう

あなたが参加している会議は「指定席」ですか？それとも「自由席」ですか？

この質問に「指定席です」と答える方はおそらく少数派でしょう。政治の世界ならともかく、学校において参加者の座席が事前に決められているのは理事会や評議員会くらいではないでしょうか。

では、自由席の会議に参加する際、あなたはいつも異なる席に座っているのでしょうか？この質問に「はい、毎回違う席に座っています」と答える方はもっと少数ではないでしょうか。

実はこの話、本シリーズの初回（2016年4月号）で触れた話題です。「いつもとは違う席に座ってみましょう、そうすれば雰囲気が変わって、会議が活性化しますよ」と書かせていただいたのですが、御校では実践していただけましたか？やってみよう、と思ったことを実際にやってみる人は1,000人に1人、とも言われます。ぜひ一度お試しください、その効果を実感していただきたいと思います。

そして今回はさらに一歩進めて、机といすの配置そのものを変える、という方法をお伝えします。主旨は以前と同じ、雰囲気を変えることで会議の活性化を狙うことにあります。座る位置が変わる以上に、机の位置や向きを変え、あわせて椅子の位置も変えてみると、いつもと同じ部屋とは思えないくらい、雰囲気が一変します。もし机やいすを動かすににくいようであれば、会議の場所そのものを変えるのもひとつの手です。会議は「場づくり」によってその効果が大きく変わりますので、場所は思った以上に重要な要素なのです。先日某学校法人の理事会に陪席させていただいた際、いつもは会議室で開催される理事会が普通教室で開催されたのですが、普段に比べ意見交換が活発になされた印象を持ちました。こういう変化をぜひ大切にしていきたいと思います。



いつも同じ場所、いつも同じ配置、いつも同じ座席…では、なかなかいいアイデアが出てこなかったり、議論が停滞したりするもの。御校でも会議の雰囲気を変えてみてはいかがでしょうか。

学校経営のことなら…



未来へつなぐ、夢がある。

株式会社ワイズコンサルティング/ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: info@ysmc.co.jp

URL: <http://www.ysmc.co.jp>(会社) <http://www.ystax.jp>(事務所)

Facebook[®]-ジ: <https://www.facebook.com/ysconsult>